

## 15. 発情予定日等の注意喚起による繁殖成績向上の取組

豊肥振興局生産流通部畜産班

○堀 元司

### 1 背景・目的

肉用牛繁殖経営における生産性向上の第一の手段は繁殖成績の向上であり、繁殖成績の向上、目標達成により所得向上、経営安定化への道が開けてくる。

しかし、竹田市繁殖経営体の子牛生産率（各年度の分娩頭数÷繁殖牛(経産牛+育成牛)平均飼養頭数）より算出した平成25年度の平均分娩間隔は445日と、1年1産や家畜改良増殖目標の380日にはほど遠く、全国平均の405日よりも40日長かった。

そこで、繁殖成績の向上を図るため、「繁殖管理プログラム」にて作成した「母牛繁殖状況一覧」を利用した発情予定日等の注意喚起を行う取組を行った。

### 2 取組内容

旧竹田市、荻町内の繁殖牛20頭以上飼養者14戸を対象経営体とし、繁殖成績の現況調査を行った後、次の取組を行った。

- ① 繁殖雌牛1頭毎の繁殖状況(種付け等)の聞き取り調査を妊鑑時や戸別訪問にて実施(原則毎月1回実施)
- ② 調査結果を繁殖管理プログラムにて整理し、母牛繁殖状況一覧を作成
- ③ 一覧を対象者宅に持参し、発情予定日や分娩予定日の注意喚起を行うとともに、60日間以上空胎している母牛の受診や高齢牛、長期不受胎牛の更新の推進を実施

### 3 結果及び考察

対象経営体の過去3年度の繁殖成績は次のとおりであった。

#### ○ 対象経営体の子牛生産率の推移

経営体	H24年度	H25年度	H26年度	3年度平均
14戸平均	84%	83%	86%	84%

発情予定日等の注意喚起を行う取組を行った結果、平成27年度の14戸平均の子牛生産率は94%となる見込みであり、子牛生産率で10%向上し、平均分娩間隔で434日が389日と45日短縮する見込みとなった。

今回の取組は新技術等の普及といったものではなく、繁殖状況の記録である一覧に基づいて注意喚起を行う、いわゆる声かけの活動ではあったが、この活動が目的意識を持ち注意深く牛を観察するきっかけとなり、漠然と飼養管理していた際には見落としていた発情等を発見するようになり、結果繁殖成績が向上したものと考えられた。

以上より、繁殖成績向上にかかせない確実な発情発見のためには、繁殖経営の基礎ともいえる「繁殖状況が一目で判る記録」の作成が不可欠であり、この記録の作成を経営体に習慣付けてもらう取組が重要だと再認識させられた。